

2024 年度 介護報酬改定

4月1日に介護報酬の改定が行われます。社会経済状況や、人口構造、環境などに合わせ3年に一度見直しがされます。

2023年には訪問介護事業所の倒産件数が過去最多だったというデータもある中、今回の報酬改定はわずか1.59%の増にとどまり、ヘルパー不足物価高騰も重なり、在宅サービスを行う小規模事業所はどこも厳しい事業運営を迫られています。

今回の改定は「地域包括ケアシステムの深化・推進」「自立支援・重度化防止に向けた対応」「良質な介護サービスの効率的な提供に向けた働きやすい職場づくり」「制度の安定性・持続可能性の確保」を基本的な視点とし改定が行われました。

▶訪問介護はマイナス改定

通所介護・ケアマネジャーは増ですが、訪問介護に関してはマイナス改定となりました。

コロナ禍で在宅サービスは最後の砦と言われ、厳しい状況の中でも在宅利用者の為に活動してきたのに国にとってはあまり重要視されていないのでは？と感じます。

新たな担い手を探すには賃金を増やさないとけない、働きやすい職場環境を整えなければならないという状況の中、基本報酬が下がるというのは非常に厳しい状況です。

▶ヘルパー担い手不足、迫る限界

現状でも各事業所工夫をしながらなんとかやっている状況ですが、ヘルパー自身も年々高齢化し増えることがなく減る一方で、サービス依頼はあつ



ても対応できない事例が起きています。このままでは介護保険料は支払っているが訪問介護は受けられないという事態になってもおかしくなく、在宅介護の限界が近づいています。

▶新たな加算も検討中

当事業所においてもヘルパーの確保は急務であり、サービスを継続していくためには職場環境を整備し、職員の賃上げなどを行い、事業所の体力維持を進めていかなければなりません。今後も介護報酬の大きなプラス改定は見込めず、「特定事業所加算」(質の高い介護サービスを提供している事業所を評価する加算)など、新たな加算の検討を進めています。

《サービス利用のみなさまへ》

今回の介護報酬改定に伴い、変更点等を記した重要事項説明書への同意及び、署名をいただく事になります。3月下旬より各担当者が説明に伺いますのでよろしくお願い致します。

NPO 法人クローバー・サービス

京都府船井郡京丹波町橋爪楡山 53
■TEL (0771)88-5014 / ■FAX (0771)88-5017
■e-mail: info@cloverservice.or.jp
■ホームページ http://www.cloverservice.or.jp

クローバー・デイサービスセンター

京都府船井郡京丹波町橋爪楡山 41-1
■TEL & FAX (0771)88-0138
■e-mail: day@cloverservice.or.jp



facebook QR

映画・本・歴史のこと

<第13回> 小澤征爾の父と母

有田誠(ありたまこと) 京丹波町在住の映画愛好家。

写真は、満州帝国章(長春にて筆者撮影)。



さくらは一九〇八年、仙台の生まれである。

小澤開作(一八九八〜一九七〇)

東京齒科医学専門学校を卒業した開作は、一九二〇年、満州に渡る。大連で勤務医ののち、長春で開業する。

同志山口重次らとともに一九二八年、満州青年連盟を結成する。目標は満州の独立、「五族協和」の「王道楽土」を建設することだった。「五族」とは、満州人、日本人、漢人、朝鮮人、モンゴル人を指す。

石原莞爾と意気投合した開作は、歯科医院はうっちゃって、政治活動の日々を送る。一九三一年九月、満州事変勃発。青年連盟は関東軍の行動を支持する。翌十月には、関東軍司令官本庄繁(丹波篠山人)に「満蒙自

由国建設綱領」を提出、「朗らかに踏み込め、高らかに飛び込め」と、関東軍ともどもイケイケの状態がつかの間つづいた。

その後、石原は孤立し、関東軍から外される。一九三二年に成立した満州国は、二年後に愛新覚羅溥儀を皇帝とする大日本帝国の傀儡国家、満州帝国となる。日本から乗り込んできたのが、岸信介や大平正芳であった。失望した山口重次は、牡丹江に去る。小澤開作は一家ともども一九三六年、北京に移った。新京時代には、懸賞金がかかられ、狙撃されたこともあったらしい。

北京では、編集人兼発行人として『華北評論』を出していた。「この戦争は負ける。民衆を敵に回し

て勝てるはずがない」と主張し、軍部ににらまれる。思想憲兵が毎日来ていた。しかし、その小山憲兵一家と親しくなり、食事をともにし、子供に剣道を教えてくれたとのこと。挙句の果て、その憲兵は小澤家のお手伝いさんと結婚、開作とさくらが仲人をやっている。一九四三年に引揚げて、立川に住んでいたとき、立川署の特高課長が監視に来ていた。平気で政府や軍の

小澤征爾さんが亡くなった。その三日後には、三十年近く音楽監督を務めたボストン交響楽団が、バッハの「G線上のアリア」を追悼演奏した。中国でも、多くの音楽活動に関わり、小学校の教科書にも載ったことがある。

小澤征爾(以下敬称略)は、一九三五年、奉天(現瀋陽)に生れた。征爾の名前は、一九三一年、満州事変を起こした関東軍の高級参謀板垣征四郎と作戦参謀石原莞爾から付けられた。その父、小澤開作は一八九八年、山梨の生まれ。母



後列左から長男克己、父開作、次男俊夫
前列左から三男征爾、母さくら、四男幹雄

批判をしてもつかまらなかつた。一九七〇年に死亡したとき、その高木元特高課長から、さくらに手紙が来た。「当時、ご主人のお話を伺いながら、この方こそ真の愛国者なのだ、ひそかに確信しておりました」と書かれていた。

敗戦間近には和平工作にも関わっていたらしい。蒋介石が石原莞爾を特使として要求してきたが、東条英機が邪魔に入ったらしい。死の四年前、訪米してロバート・ケネディ司法長官と面会。満州の失敗を前提とし、米国のベトナム政策を批判する建言文書を渡している。

「おれは死ぬ時はあつという間に死ぬからな」。一九七〇年十一月二日、心筋梗塞で死亡、式では山口重次

が別れの言葉を述べた。

小澤七くら

仙台にいた頃は詩を書いていた。石川善助という人に詩をみてもらう。彼は西条八十や野口雨情と付き合いがあり、「酒は涙かため息か」の作者である。

馬車の荷はキャベツの山や

瀋陽の街

屋台店焼餅シヤオピンの匂いライラック

火鍋ホーゴウズ子みがいて我家冬支度

小澤さくら

一九二七年、写真だけで長春に渡り、開作と結婚する。大連で満鉄に務めていた叔父の紹介だった。結婚しても歯科医は最初だけ、政治活動でほとんど家におらず、その家も多く

の人間が出入りしていた。

そんな中で、四人の男の子を生み育てていている。

長男克己（一九二八年長春生）は、小澤征爾による

と、兄弟で最も才能のある、わが家に芸術を持ち込んだ兄貴だったとのこと。

映画が好きで、ジエームズ・ディーンジェームズ・ディーンの『エデンの東』を十回以上観ていた。

一九八四年、京都で五十六歳で早逝。

次男俊夫（一九三〇年長春生）は小澤昔ばなし研究所

所長として、現在に至るまで多くの好著を出版している。

三男が征爾。四男が幹雄（一九三七年大連生）、俳

優、放送タレント、エッセイストとして活躍中である。

NHK大河ドラマ『勝海舟』では、ジョン万次郎を演じた。

さくらは、新京にエノケン一座が来たとき、親しくなり、家に泊めた。三十年後、幹雄は東宝芸術座でエ

ノケンの舞台に立つことになる。作品は菊田一夫の『がめつ奴』だった。

奉天で叔父が鞍山アンシャンの中学教師で赴任の際、その娘を預かる。その同級生に李香蘭の妹がいた。

大連星ヶ浦のホテルでは隣室に川島芳子がいた。清朝王族肅慎王第十四王女、大陸浪人川島浪速なまむらの養女と

して育てられ、満州帝国崩壊後、漢奸として銃殺刑になった。『人妻椿』や『愛染かつら』を戦前に大ヒットさせた野村浩将ひろまさ監督が

『戦雲アジアの女王』（一九五七）として彼女を映画化、芳子を高倉みゆきが演じ、高島忠夫、丹波哲郎ら

が出演した。北京で同仁病院に入院したとき、隣室に汪兆銘国民政府主席が入院中だった。

戦後、黒柳徹子の弟紀明が征爾と同じ桐朋学園、さくらと母の朝さんはPT

Aでいっしょだった。市ヶ谷で開作の告別の会をやったとき、隣の自衛隊で三島由紀夫が割腹した。

何とも、さくらさんも二十世紀の歴史や人物とあちこちで遭遇してきたのである。二〇二〇年没。



瀋陽駅（筆者撮影）

補助を受け、感染予防物品を購入

京都新聞社会福祉事業団から在宅高齢者の介護支援を目的として助成を受け、マスク、使い捨て手袋、消毒用アルコールなどの感染予防物品を購入しました。

新型コロナをはじめ、インフルエンザなど、未だ続く感染症対策や日々のヘルパー活動に使用していきます。

<賛助会員>

(有)あさひ堂
(株)一谷住宅
イン・ザ・ルーム亀岡店
上段税理士事務所
(株)高木設備
たにやま鍼灸接骨院
田端輪業
(有)土佐寿司
(有)永田損害保険事務所
(有)西村テレビ
三木歯科医院
みづほ電工
理容ちどり

(五十音順)

■京都新聞社会福祉事業団

京都新聞社を母体とする事業団は新聞社の持つメディア機能を活かして、社会の福祉ニーズを的確にとらえ、幅広い活動をされています。その活動の中で、京都・滋賀の地域福祉向上のために活動するボランティアグループや福祉施設・団体などを対象に助成も行われています。過去にクローバー・サービスも物品・車両購入に関する助成を受けました。

求む！介護職員！

働きやすい職場です！
一緒に働きませんか？

ブランクのある有資格者の方にも丁寧に指導いたします。自宅で介護や、子育てしながら働いている職員もたくさんいます。

また、今後資格を取ろうと考えている方にもその方法や、助成制度など相談にのりますので、お気軽にお問い合わせください。

編集後記

二十代前半の3年間をアメリカ合衆国ロードアイランド州で過ごしました。アメリカで一番面積が小さい州（神奈川県とほぼ同じ広さ）で、東海岸、ボストンがあるマサチューセッツ州とコネチカット州の間に位置します。▼アジア系の住民は少なく街中のレストランで食事をしていたら小さな子供に不思議そうな目でじーっと見つめられたことがあります。大きな目をしているので、その目を珍しく思ったのかも知れませんが（笑）。街中で日本人はおろか、アジア系の人を見かけることは殆どありませんでした。▼そんな中、同僚のアメリカ人に「有名な日本人って誰がいる？」と尋ねたところ、「ユー・お前だよ」とアメリカカンジョークを一言はさみ、「ヒデオ・ノモヤ、セイジ・オザワには負けるけどな」と返されました。当時メジャーで大活躍していた野茂英雄選手のことによく知っていましたが、ク

ラシックのことなどまったくの無知で「オザワって誰？何をしている人なん？」と、恥ずかしくも問い返したのですが、それがきっかけでボストン交響楽団のコンサートに行くことになりました。▼カジュアルな服装じゃ恥ずかしいよと、珍しく着飾って同僚とともに伝統あるシンフォニーホールに足を踏み入れました。当時はまだ若かったので、凛としたその雰囲気にもまれ、演奏までは深く記憶に残っていないのですが、当時音楽監督を務めていた小澤征爾さんの指揮を直に見ることができ貴重な体験となりました。その姿に、同じ日本人として誇らしげに感じたのを覚えています。スタンディングオベーションをしたのはその時が最初で最後かもしれません。▼多くの演奏家に影響を与え、多大なる功績をあげてこられた「世界のオザワ」こと小澤征爾さんのご冥福をお祈りいたします。

編集子へ